

TIRI NEWS 12

都産技研から未来へ、先端技術情報を発信

2012 Dec.

特集 都産技研ブランド試験 2

▶ 省エネをリードする 測光・光利用技術支援

REPORT

▶ 本部開設1周年 記念講演会・ラボラトリーツアー を開催

省エネをリードする 測光・光利用技術支援

LEDを使用した照明機器の開発や普及に伴い、
技術相談や依頼試験も増加しています。
都産技研では、従来の光源の各種性能評価に加え、
LED照明機器など新規格にも対応する
性能評価試験をより充実させました。
また、光材料や赤外線を利用した技術支援も行い、
お客さまの幅広い要望にお応えしています。



光に関するさまざまな試験に対応

照明器具を開発するときに必要な、配光特性、全光束、照度分布など電球、蛍光灯、LEDをはじめとする各種光源を搭載した照明器具の光学的特性を包括的に測定します。

また、照明関連器具の色合いや光の指向性、明るさの分布が測定でき、LEDや有機ELなどの新光源に対応した試験が可能です。光学材料の透過率・反射率測定、蓄光材料の輝度測定も行っています。

依頼試験

- 光束測定
- 照度測定、照度分布測定
- 分光分布測定(放射照度、透過率・反射率)
- 色彩計算(色度、演色評価数、色温度)
- 照度計校正試験
- 赤外分光分布測定(透過率・反射率)
- 赤外放射パワー測定
- 光度測定
- 輝度測定、輝度分布測定
- 配光測定
- 赤外分光放射測定
- 温度分布(サーモグラフィ)

contents

■ 特集—都産技研ブランド試験2

照明試験 2

製品開発支援ラボ入居企業のご紹介 4

■ REPORT

本部開設1周年記念講演会・ ラボラトリーツアーを開催 6

シリーズ第2回 産学公連携 コーディネータに聞く 7

技術解説 DC電源アナライザ 8

TKFのサイトをリニューアルしました！ 9

多摩テクノ広場 10

インフォメーション 11

トピックス 12

表紙の写真 No.3 照明試験

都産技研の照明試験では、LEDランプなど各種照明機器についてあらゆる角度から性能評価試験を行っています。

写真は球形光束計を使って光源の全光束(光の総量)を測定しているところです。



導入している主な試験装置



配光装置

照明器具の光度を角度ごとに測定(LED蛍光灯など)



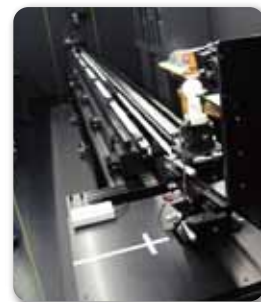
球形光束計

各種光源の全光束を測定(LED電球など)



照度分布測定器

照明器具の床面における照度分布を測定(LED蛍光灯など)



測光ベンチ

小型照明器具の明るさの広がり具合を表す配光分布を測定(LED電球など)



分光応答度測定器

測定機器、受光器の分光応答度を波長ごとに測定



分光放射照度測定装置

各種光源の波長ごとの出力(スペクトル)を測定し、色合いや色見えを評価(LED電球やLED蛍光灯など)



輝度分布測定装置

パソコンやデバイス画面、プロジェクタ投影用スクリーン、蓄光材料などの明るさ分布を測定



赤外線分光放射率測定装置



サーモグラフィ 輝度計 照度計

これは知っておきたい

光線追跡シミュレーション

照明光学系において、リフレクタやレンズ、導光板内の光線の伝搬を可視化できる「光線追跡シミュレーションシステム」を導入しました。

これにより、配光、器具光束、照度分布、輝度分布についてのシミュレーションが可能になります。また、これらの測光量に応じて、それぞれの測定器を用意していますので、実測に基づいた精度の高いシミュレーションが可能になり、製品開発のスピードアップが期待できます。

機器の利用に関しては利用要件がありますので、ご希望の方は光音技術グループまでお問い合わせください。



モデリング



シミュレーション

光音技術グループ TEL:03-5530-2580 FAX:03-5530-2591

～担当研究員から～

LED照明を中心に充実した試験設備で行う「照明試験」



光音技術グループ 研究員
横田 浩之 澁谷 孝幸

■試験の目的はどのようなものですか？

横田:お客さまから持ち込まれた試作品が設計仕様どおりにつくられているか、JIS規格などに定められた数値を満たしているかどうかなど、製品の性能を評価する目的で行っています。

■試験をよく利用される業種や製品は何ですか？

横田:照明器具メーカーや照明関連の卸売業などのお客さまに多くご利用いただいています。近年では蛍光灯や電球の測定は減少して、LED電球や直管形LED、LEDダウンライトなどが増えてきています。

澁谷:オフィスや家庭用だけでなく、トンネルや船、信号機、工場の天井につける照明など、試料はさまざまですね。

■都産技研の照明試験の特徴は何ですか？

澁谷:LED照明試験に必要な一通りの設備が整っていることです。当初LED照明は、大手の家電メーカー等が開発・販売をしていましたが、市場に新規参入する企業が増え、今ではさまざまな製品に使われています。一方で、もともとは別の技術分野や製品を扱っていたため、LEDに詳しくないという企業がお客さまとして多くご相談に来られます。都産技研では単に計測するだけでなく、お客さまからのご質問やご相談に丁寧にお応えするようにしています。

私も研究員もお客さまに「照明のことがよく分かった」と言っていたいただけることを喜びに感じています。

化学系ラボが、 除染技術の実用化を後押し

都産技研が行う事業の一つである製品開発支援ラボ。これは、企業が持っている技術を製品化・事業化するに当たり、必要な研究や実験、試験を行うことができるレンタルスペースです。

この製品開発支援ラボに入居されている企業をご紹介しますシリーズ第1回目は、今年4月から本部のラボに入居されている株式会社CDMコンサルティングに、ラボがどのように事業化に役立っているのかをお伺いしました。

株式会社CDMコンサルティング



株式会社CDMコンサルティング

技術開発部 中村 聡さん



技術開発部 最上 要さん



セシウム除染技術を実用化した実証実験プラント。製品開発支援ラボでの研究・実験の成果でもあります。

バイオマスエネルギーのエクセレントカンパニー

当社はバイオマス再利用技術の開発や有機廃棄物処理技術、真水製造技術等の次世代技術開発を行っている企業です。

製品開発支援ラボには、今年4月から入居しました。バイオディーゼル燃料製造装置や亜臨界・超臨界加水分解（バイオマス資源化）装置、ガスハイドレートを利用した脱塩淡水化・汚水飲料化処理装置などについて、研究・実験を行っています。

放射性セシウムの除染技術の実用化に成功

中でもバイオマス資源化装置を使った土壌中の放射性セシウムを分離除去する技術については、世界で初めて実用化に成功し、(独)日本原子力研究開発機構から「セシウム除去効果が期待できる」という評価をいただきました。本来、土壌中の粘土鉱物や腐有機物はセシウムの吸着能が高く、除去することは困難でしたが、当社の亜臨界水熱爆砕法を活用した排気密封型の実規模プラントによる実証試験で80%以上、さらに反復運転によって95%以上のセシウム除去が可能になりました。

ラボ入居が実用化のスピードアップと品質アップにつながった

この成果には、製品開発支援ラボへの入居が大きく関わっています。亜臨界水熱爆砕処理法の実用化にはプラント開発が不可欠。排水などさまざまな問題をクリアしなければなりませんので、化学系の実験室がどうしても必要でした。その点レンタルしたラボは、純水供給設備とドラフトチャンバーが設置されている化学実験室だったので、とても助かりました。

また、最適に運転するための試験をバックアップしてもらえたことも、実用化のスピードアップ、品質アップにつながったと思います。

製品開発支援ラボとは

Product development support laboratory



化学実験室



ラボ交流室

製品開発支援ラボは、中小企業などが都産技研の技術を活用しながら、製品化・事業化することを目的に、24時間利用できる研究・実験のレンタルスペースです。本部に19室（機械系6室、電気系5室、IT系5室、化学系3室）、多摩テクノプラザに5室設けており、本部には小型旋盤やフライス盤などの機械加工機や電気試験機器が利用できる共用の試作加工室、ドラフトチャンバーを装備した共用の化学実験室、入居企業同士が交流できるラボ交流室などを設置しています。



試作加工室

ラボマネージャーからひとこと

都産技研の技術支援や製品化・事業化に関する相談にお応えし、経営相談、知財相談、技術指導などを行っている伊瀬ラボマネージャーにお話を聞きました。



本部 ラボマネージャー
伊瀬 洋昭

ラボマネージャーの役割とは

私たちの役割は、製品化・事業化に当たって課題の解決を技術面で総合的にサポートすること。製品化への道筋がつけられるようにアドバイスしたり、必要な情報を提供したりしています。（公財）東京都中小企業振興公社や東京都知的財産総合センターなどの外部機関と連携して、製品化事業がよりスムーズに進められるように取り計らうこともあります。また、ラボを利用する上で高圧ガスや薬品の持ち込みや使用などに関しては色々な制約がありますので、その調整を行うのも大事な役目です。

入居できなかった企業の方も、ぜひご相談ください

入居されている企業さまからのご相談には、丁寧に対応することを心がけています。皆さんに周知しなくてはならない情報は、手づくりの「ラボ通信」を配布して共有していただいたり、交流室に健康グッズを置くなど、皆さんが気持ち良く利用していただけるように配慮しています。

おかげさまで現在満室の状態ですが、応募して入居できなかった企業さまに対しても、本部周辺のレンタルオフィスをご紹介することがあります。そこに入居していただき、都産技研の技術支援をご利用いただくという方法もありますので、お気軽にご相談ください。

REPORT 本部開設1周年 記念講演会・ラボラトリーツアーを開催

10月3日、都産技研は江東区青海での本部開設1周年を迎えました。これを記念して「記念講演会・ラボラトリーツアー」を開催し、約300名のお客さまにお越しいただきました。

記念講演 都産技研・片岡理事長の開会挨拶に続き、国立科学博物館の鈴木一義氏による「ものづくりイノベーションの実現に向けて」と題した記念講演を行いました。

開会挨拶

都産技研の現在の利用状況などを報告した後、「全国的に震災からの復興が急がれる中で、円高や電気料金の値上げ、国際関係の緊張など、日本の経済状況は依然として厳しい。その状況を打破し、経済を回復させるには中小企業の力なくしてはあり得ません。ぜひ都産技研の支援事業をご利用いただき、経済を盛り立ててほしい。」と述べました。



理事長 片岡 正俊

記念講演「ものづくりイノベーションの実現に向けて」



国立科学博物館
理工学研究部
科学技術史グループ長
鈴木 一義 氏

Profile

日本の科学技術の発展過程の研究に長年携わり、特に江戸時代から現代にかけての科学・技術の発展状況を実証的な見地で調査・研究に従事。経済産業省「ロボット大賞」、「ものづくり日本大賞」などの選考委員や多数の展示監修委員を歴任。

江戸時代から伝わる、日本古来の科学・技術の紹介をはじめ、「ものづくり日本大賞」など多くの賞の選考委員としてかわる中で見えた、近年注目すべき製品化事例などを多く紹介。常に「オンリーワン」を追求してきた日本のものづくりの歴史を再確認するとともに、ほかの技術分野との連携や、組み合わせによって新たなイノベーションにも期待できることを事例を持って示していただきました。「ものづくりがどうあるべきか、次世代に伝えるのが私の役目」と語る鈴木氏は、「つくるものに魂を入れるのが世界も認める日本流のものづくり。企業の皆さんはぜひ自信を持って、明るい笑顔でものづくりをしてください!」と激励し、講演を締めくくりました。



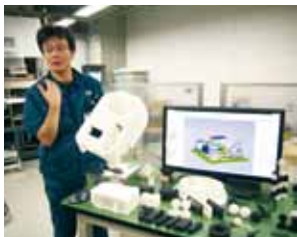
記念講演会

ラボラトリーツアー

実験や実演を通じて、都産技研の研究成果を紹介する見学ツアーを行いました。また、都産技研が対応する技術分野を紹介するパネル展示、本部周辺を見学する東京ゲートブリッジツアーも実施しました。ここではその一部をご紹介します。

売れるものづくり

システムデザインセクターでは、「売れるものづくり」のために商品企画から、試作、販売促進までを一貫して支援しています。今回の見学では、3階の高速造形室、デザイン支援室、創作実験ギャラリーを開放し、三次元デジタイザやRP装置の実演、TROBOTを使った案内ロボットや売れる商品づくり、ブランド確立支援についてご紹介しました。



高速造形室

実証実験



製品強度実験室

実証試験セクターでは、信頼性評価、故障解析、動作解析、環境試験などを行い、高品質・高性能な製品開発をサポートしています。1階の製品強度実験室では、金属材料の引張破壊試験、製品の衝撃特性評価試験の実演、2階の環境試験室では、身近な家電製品を使って静電気放電試験や瞬時停電試験などの実演を行いました。



実演を行いました。

パネル展示

東京イノベーションハブ(本部 2階)では、都産技研の研究成果や技術シーズを紹介するパネル展示のほか、都産技研と都内中小企業との共同研究で生まれた製品(ECO経木モバイル木工工作キット・自然素材100%の成形材料サスティモ®を使った新世代漆器「とさうるし」・モバイルプロジェクタースクリーン・三宅ガラスジュエリー)の展示・即売会を行いました。また、1階エントランスでは、次世代自動車技術研究会によるEV車の展示や、多摩テクノプラザで制作した 燃料電池駆動電気自動車「エコノムーブ」の展示も行い、多くのお客さまがご覧になりました。



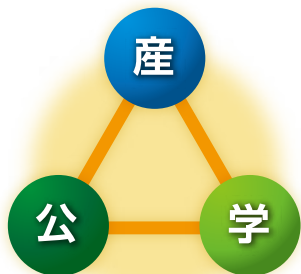
東京イノベーションハブでの展示

東京ゲートブリッジツアー

都産技研本部の周辺をバスで巡り、東京ゲートブリッジを渡るツアー。あいにくの雨模様にもかかわらず、約180名の方が参加されました。



ゲートブリッジから見える東京湾の眺め



産学公連携コーディネータに聞く

中小企業の技術開発や製品開発の過程でさまざまなサポートをする都産技研の「産学公連携コーディネータ」。日頃受ける相談や、サポート内容の実際をご紹介します。

朝比奈 奎一 コーディネータ

多摩テクノプラザ



Profile

都産技研の前身である都立工業技術センターで19年間研究員として従事した後、平成24年3月まで都立の高専で22年間教鞭を執る。平成24年4月より産学公連携コーディネータとして旧知の都産技研に復帰するも、相談回数はすでに90回ほどに上る。前職で培った人脈をフルに活用して、積極的に相談に乗る日々。

朝比奈CDの担当曜日
毎週月曜日9時～17時

中小企業の課題に対して、 どのように解決への道筋を付けるかアドバイス

中小企業の方は学びに対して敷居が高いと思うのでしょうか、学問的な相談を遠慮するところがありましたね。それを何とかしようと、都立高専の教員時代、中小企業向けに夜学を立ち上げたこともありました。大田区がバックアップしてくれたのですが、その時の人脈が生きていて、今も大田区を通じて相談があります。

相談に来てくださった企業が困っていたら、どうやって課題解決の道筋を付けるのかをアドバイスするのがコーディネータの仕事だと思っています。課題解決を意識したストーリーづくりは研究においてもやっていました。経営やマネジメントの課題に遭遇することもありました。中小企業診断士の資格を取ったのも、そうしたニーズに応えなかったからです。

産学の連携というと、企業が大学に頭を下げるというイメージがあるかもしれませんが

が、大学の先生もアイデアを実際に形にしてくれるところを探しています。そうしたニーズを今後も掘り起こしたい。多摩地区には国立の高専もあるし大学も多いので、宣伝して回るといいかなと思っています。

昔はどうすれば難削材を加工できるかなど固有技術に関する相談が多かったのですが、現在は「ものづくりと情報を結びつけるにはどうしたら良いか」など、複合化された課題の相談が多くなっています。それらの課題解決に道筋を付けられるのも、我々コーディネータの経験が物を言います。今までの経験を生かした産産連携のコーディネータも多く行っていて、実際のマッチングに成功した例もあります。

今後は高専と企業との共同研究も実現させたい。高専も企業のニーズを知る機会になり、企業・高専両者のニーズとメリットが一致する点でも有効だと思うのです。

●事例紹介

A社の場合〔産産連携の例〕

A社は、美容・健康器具の会社。自社でデザインも行っていますが、実際のものづくりは、金型設計から成型までを中国に発注して全てお任せの状態。そのため、ものづくりの実際をほとんど知らず、危機感を持つようになりました。

相談→共同研究までの経緯

- A社「まずは“ものづくり”について知りたい」 「金型をどのようにつくるか」、「どのような金型が作りやすいか」などを知りたい。

A社 「金型について理解すれば、“この形を変えれば作りやすい金型ができる”といったデザインもできるようになる」

朝比奈CD 「B社社長のようには社を運営し、なおかつものづくりをしている人なら相談に乗ってくれるのでは…と考えてこの会社に相談しました」

- 朝比奈CD、金型の設計・製造のB社を紹介 A社の社長の話を聞いた上で、高専時代の人脈を活用して紹介。

- A社とB社の金型設計・製造の産産連携が進行中 社員教育も含めて、社内のエンジニアリング部門強化を進行中。



Message 中小企業の皆さんへ



私の専門分野は生産技術や機械設計ですが、今は技術分野で単純に分類できる課題は少ないですし、実際に複合的かつさまざまな課題の相談に乗っています。連携がうまくいかないかも…と二の足を踏んでいるケースもあるかもしれませんが、多くの人とのコミュニケーションを取るだけで思いも寄らぬアイデアが生まれたり、技術に理論的な裏付けを得たり、メリットがあると思いますよ。さまざまな人をご紹介しますことで問題解決の場をつくりたいと思いますので、ぜひお気軽に何でもご相談ください。お待ちしております。

DC電源アナライザ

～微小電圧/電流用電源や多電源システムの評価が可能～

携帯電話やスマートフォンといった携帯型電子機器の普及に伴い、微小電圧/電流用電源や多電源システムの評価の必要性が高まっています。このような評価を効率よく行うことができるDC電源アナライザを新たに導入しました。

はじめに

携帯電話、スマートフォンやデジタルカメラ等の携帯型電子機器では、個々のデバイスの供給電圧／消費電流が微小であり、搭載される電源の数が複数に及びます。例えば、携帯電話の電源は1つのリチウム電池のみですが、回路側ではCPU、メモリ、ディスプレイなどの各部分で供給電圧や消費電流などの電源仕様が異なります。携帯機器は電池駆動であることから、小型化に加えて電力の効率化も重要です。したがって、各部に供給される電源電圧や消費される電流値などを詳細に評価することが求められます。

今回ご紹介するDC(Direct Current: 直流電流)電源アナライザは、多電源出力、数百 μ Aの微小電流や数mVの微小電圧の供給と、オシロスコープおよびデータロガーの波形/データ取得機能を有した多機能電源です(図1)。携帯型電子機器の微小電圧/電流用電源の評価やFPGA(Field Programmable Gate Array)等を使った多電源システムの評価にご利用いただけます。



図1 DC電源アナライザ

図2は、FPGAが実装された多電源システムを評価する様子です。本設備によって、都産技研が提案する非同期式回路設計手法を活用した消費電流削減の効果を高精度に評価することができました。他にも外部制御等の便利な機能を有しています。

【主な仕様】

型式:N6705B、N6762A(内蔵)

チャンネル数:4

電圧出力定格:50V

電流出力定格:3A

電力出力定格:100W

出力電圧設定精度:0.016% + 6mV

出力電流設定精度:0.04% + 200 μ A

測定電圧設定精度:0.016% + 6mV

測定電流設定精度:0.04% + 160 μ A



図2 多電源システムの評価

特徴

・任意信号発生器機能

DC出力を変調することができ、正弦波等の頻繁に使用される信号波形や任意のユーザー定義波形をご利用できます。

・出力シーケンス設定機能

多電源システム向けに各DC出力を遅延付きでオン／オフするように個別の設定ができます。

ご利用について

本設備は、これまでにUSB電源供給に関する依頼試験の実績があります。機器利用やオーダーメイド開発支援等にご利用いただけますので、お気軽にご相談ください。

情報技術グループ <本部>

岡部 忠 TEL 03-5530-2540

E-mail: okabe.tadashi@iri-tokyo.jp



TKFのサイトを <http://tkm.iri-tokyo.jp/> リニューアルしました!

平成24年10月、首都圏公設試験研究機関連携体(TKF)が運営するポータルサイトをリニューアルしました。ユーザーのどなたでも簡単にアクセスでき、利用しやすいWebサイトを目指しています。

リニューアルの4つのポイント

1 誰も見やすく、利用しやすいサイトに
従来のサイトは見づらく、検索方法も分かりにくいというご意見がありました。そこで今回のリニューアルでは、グローバルナビゲーションを見やすく、使いやすく整理したほか、「設備・技術検索」「技術相談」など利用頻度の高い機能を右メニューに配置。一目で分かる構成になっています。

2 設備データベースを再構築
都産技研、埼玉県、千葉県、神奈川県、横浜市の各公設試験研究機関の設備情報と連動し、最新情報のデータベースとしてご利用いただけます。

3 親しみやすく、見やすいデザインに刷新
「身近な公設試」をコンセプトに、親しみやすさや信頼感を意識してデザインを一新しました。

4 アクセシビリティへの配慮とWebガイドラインW3C (World Wide Web Consortium)への準拠
高齢者や障がい者の方々を含めた誰もが情報にアクセスできるよう、文字サイズの変更機能を持たせたほか、Webの国際基準に準拠した仕様に変更しました。



リニューアルサイトのトップページ

首都圏テクノナレッジ・フリーウェイ(TKF)とは・・・

都産技研が提案し、埼玉県産業技術総合センター、千葉県産業支援技術研究所、神奈川県産業技術センター、横浜市工業技術支援センターと広域に連携して行う技術支援のネットワークです。インターネットを活用しながら、首都圏の公設試験研究機関の情報へ、横断的に、シームレスにアクセスできる仕組みを構築。中小企業の皆さまの支援内容をより一層充実していきます。



試験紹介

CEマーキング取得事例

多摩テクノプラザでのEMC試験プラン

多摩テクノプラザではCEマーキング取得を目指すお客さまのために、EMC指令を満たすための試験設備を揃えています。

まずは電話でご相談

CEマーキング取得のためのEMC試験を希望されるお客さまは、まず多摩テクノプラザにお電話ください。実施する試験規格そのものが不明な場合は、専門のアドバイザーが対応します。

試験の打ち合わせ

試験規格が決まりましたら、試験計画を立てるために多摩テクノプラザの연구원と打ち合わせを行います。その際に供試装置の情報について、主に以下のことを確認しています。

- ①試験対象(CEマーキング)の範囲
- ②試験時の供試装置の動作状態
- ③試験ポートの数、ケーブル類の長さ
- ④誤動作の確認方法

これらの情報と試験規格によって試験条件を決定し、試験時間の見積り、日程調整を行います。特にイミュニティ試験では、上記②、③の条件によって費やす時間が大きく異なります。例えば、伝導イミュニティ試験は、今回適用した規格では3m以上の電源および通信ケーブルに対して行いますが、1ポートの試験に約1時間かかります。つまり試験対象ポートの数によって所要時間が大きく変わるため、付属で接続するケーブルの長さの仕様を事前に定めておくと、試験条件の決定を速やかに行うことができます。

EMC試験事例

試験事例としてご紹介するのは工業用のガス発生装置(図1)です。動作モードが1つ、試験ポートが1つと、試験条件の少ない供試装置ですが、全体のEMC試験には3日ほど要しました。また、試験の際に供試装置が破壊される可能性がある静電気試験やサージイミュニティ試験を最後に行うことをおすすめしています。今回の事例でも、最終日にこれらの試験を行いました(表1)。

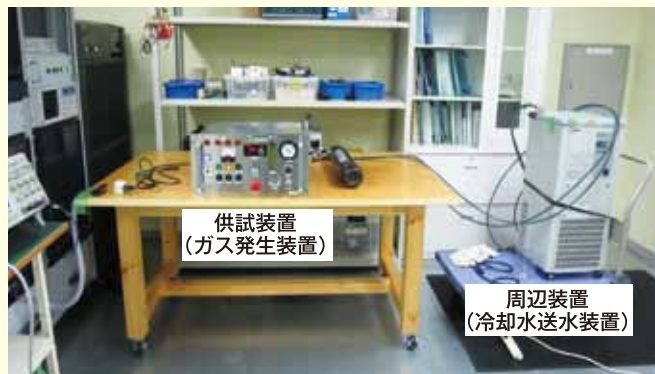


図1 試験構成((株)PARAMの試験風景)

表1 事例の試験プラン※

試験項目		所用時間
1日目	シールドルーム	
	・EFT/B試験	1時間
	・伝導イミュニティ試験	1時間
	・電源周波数磁界イミュニティ試験	1時間
2日目	電波暗室	
	・放射エミッション測定	2時間
	・雑音端子電圧測定	1時間
	・放射イミュニティ試験	4時間
3日目	シールドルーム	
	・静電気試験	1時間
	・サージイミュニティ試験	3時間

※試験項目、所要時間は試験規格および供試装置によって異なるため、事前にご確認ください。

【開発元】株式会社PARAM (<http://www.param.co.jp>)

CEマーキング取得のご相談に当たって

CEマーキング取得には、EMC指令に加えて低電圧指令や機械指令への対応や技術文書の作成などが必要です。

都産技研では、それらのご相談にも対応しています。お気軽にご連絡ください。

電子・機械グループ <多摩テクノプラザ>
大橋 弘幸 TEL 042-500-1263
E-mail: ohashi.hiroyuki@iri-tokyo.jp

震災復興技術推進シンポジウム 「あつめる、まとめる、すてる… 震災に学ぶ情報とのつきあい方」

参加費
無料

今年度、全5回シリーズで開催している『震災復興技術推進シンポジウム』。第4回目となる今回は、多摩テクノプラザ・多摩信用金庫の主催で情報の扱い方をテーマに開催します。震災から今日まで、さまざまな情報が日々発信される中で、膨大な情報に振り回されずに上手に扱うための、新しい技術や考え方をご紹介します。

平成24年12月4日(火)
13:15～17:00(受付開始は12:45～)

●会 場 たましん事業支援センター [愛称:Winセンター]
(立川市曙町2-8-18 東京建物ファースト立川ビル1階)

●参加費 無料

●講師および講演内容

14:00～15:20 「歴史の実相をつたえる多元的デジタルアーカイブズ」
首都大学東京システムデザイン学部 准教授 渡邊 英徳 氏
15:35～16:55 「ダメ情報の仕分け方」
駒澤大学経済学部 准教授 飯田 泰之 氏

●お問い合わせ

TEL 042-500-2300 (多摩テクノプラザ 総合支援課:小山)
TEL 042-526-7728 (多摩信用金庫 価値創造事業部:山田)

主催:東京都立産業技術研究センター 多摩テクノプラザ
多摩信用金庫

展示会出展情報

エコプロダクツ2012出展情報

本展示会は、レアメタル回収システムなど資源リサイクルに関する最先端の環境研究を紹介するもので、今年度は「The Greener, The Smarter — えらぼう未来を」をテーマに、スマートコミュニティ、自然エネルギー関連技術、エコ住宅、エコカー、省エネ家電などのイノベーションの鍵となる技術を発信します。都産技研からは環境技術グループが出展します。



平成24年12月13日(木)～15日(土)
10:00～18:00(15日は17時まで)

●会 場 東京ビッグサイト
東1～6ホール(江東区有明3-11-1)
小間番号:2-005

●入場料 無料(登録制)

●展示内容(予定)

【企業と共同で取り組んでいる研究開発事例】

○廃木材に含まれる塩分の簡易自動測定装置の開発(震災復興支援)

【現在取り組んでいる研究開発事例】

○微生物を利用した排水中のレアメタル吸着

○ガラス発泡体を利用したリン酸回収システム

※今後、実用化に向けた研究開発を共同で行っていただける企業さまをお待ちしています。

【依頼試験業務】

LCAを活用した環境対策支援や、RoHS指令・REACH規則など国際規格に関する相談および分析試験、カビ同定試験など、環境に関する依頼試験をご紹介します。

※イベントの詳細は、都産技研ホームページ【イベントスケジュール】(<http://www.iri-tokyo.jp/joho/event/>)をご覧ください。

受賞報告

AWARDS

都産技研の研究員が行っている研究や開発が
各分野から表彰されました。

表面技術グループ長

木下 稔夫

受賞名 『2012全国大会表彰』
表彰団体 日本工業塗装協同組合連合会
受賞理由 「中小企業ものづくり基盤技術の高度化に関する法律」において、塗装技術を「特定ものづくり基盤技術」に指定するべく活動。平成24年4月に同方針の改正に貢献したことを評価。

受賞日 平成24年9月13日(木)

機械技術グループ副主任研究員

福田 良司

受賞名 『Dynamics and Design Conference 2011 オーディエンス表彰』
表彰団体 一般社団法人日本機械学会
受賞理由 機械力学・計測制御部門 アクティブノイズコントロールによる開口部の騒音低減に関する研究が、「新規性と創意工夫に富んでいる」との評価。

受賞日 平成24年9月13日(木)

高度分析開発セクター長

上野 博志

受賞名 『先端分析技術賞 JAIMA 機器開発賞』
表彰団体 公益社団法人日本分析化学会
受賞理由 燃焼－イオンクロマトグラフィーによる有機・無機ハロゲン及び硫黄自動分析装置の開発を評価。

受賞日 平成24年9月20日(木)

スウェーデン地方自治体協議会が 多摩テクノプラザを視察

10月4日、日本の地方自治などを調査するために来日したスウェーデン地方自治体協議会が昭島市を訪問し、多摩テクノプラザを視察しました。EMCサイト、塩水噴霧試験、高速造形機などを見学した後、質疑応答が行われました。中小企業に対する技術支援を行う公的な試験研究機関は海外では例が少なく、予算や利用状況について多くの熱心な質問が出され、時間が超過したほどでした。「日本の技術水準の高さの要因はここにある」というご挨拶に、私たちの仕事の重要性を改めて心に刻みました。



▲多摩テクノプラザ玄関にて

明星大学と協定を締結

10月12日、都産技研と学校法人明星学苑明星大学(学長・小川哲生氏、以下「明星大学」)が業務連携に関する協定を締結しました。明星大学は、「和の精神のもと、世界に貢献する人を育成する」を建学の精神に掲げ、昭和39年に東京都日野市に開学した総合大学です。

これまでも明星大学とは主に福祉工学の分野において連携し、情報発信や研究者の交流を実施してきましたが、今回の協定締結によって東京都内の中小企業への技術支援と高度技術者の育成における連携の推進を目指します。



▲小川学長(左)と片岡理事長

「広域首都圏輸出製品技術支援センター(MTEP)」を 都産技研本部に開設

10月24日、都産技研本部3階に「広域首都圏輸出製品技術支援センター(以下、MTEP[エムテップ]:Metropolitan Technical Support Network for Export Products)」の本部を開設しました。当日は連携機関や各県の公設試験研究機関など多くのお客さまに見守られながら開所式を行い、その後、新設したMTEP本部や関連がある電磁シールド室、半無響室、照明実験室、製品化事例などを実際にご覧いただく内覧会を開催しました。

MTEPは中小企業の海外展開を支援する目的で、都産技研と4県の公設試(埼玉県産業技術総合センター、千葉県産業支援技術研究所、神奈川県産業技術センター、長野県工業技術総合センター)が連携して設置しました。ISOやIEC、JIS等をはじめとする海外および国内の規格情報の閲覧サービスや専門相談員による技術相談、その他有料での評価試験の実施、海外規格に適合した製品開発の設計支援、海外規格や輸出規制に関する技術セミナーの開催・情報提供なども行います。



▲開所式で行われたテープカット



▲新設したMTEP本部をお披露目した見学会